

研修シラバス

事業者名：ヘルス・ケア・サポート ハクビ

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画	
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数	実施内容
1 職務の理解	6時間	1 職務の理解	6時間
(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左	2.5
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左	3.5
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間
(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左	6
(2) 自立に向けた介護		(2) 同左	3
3 介護の基本	6時間	3 介護の基本	6時間
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左	3
(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左	0.5
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左	2
(4) 介護職の安全		(4) 同左	0.5

<p>4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間</p>	<p>4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間</p>	<p>4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携</p>
<p>(1) 介護保険制度</p>	<p>(1) 同左</p>	<p>(1) ・介護保険制度創設、目的、動向、仕組み、予防給付などについて解説する。 ・介護保険の理念についてグループディスカッションを行う</p>
<p>(2) 障害者総合支援制度及びその他の制度</p>	<p>(2) 同左</p>	<p>(2) 障害者総合支援制度の仕組み、日常生活自立支援事業、成年後見制度などについて解説する。</p>
<p>(3) 医療との連携とリハビリテーション</p>	<p>(3) 同左</p>	<p>(3) ・医行為と介護、リハビリテーションの理念などについて解説する。</p>
<p>5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間</p>	<p>5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間</p>	<p>5 介護におけるコミュニケーション技術</p>
<p>(1) 介護におけるコミュニケーション</p>	<p>(1) 同左</p>	<p>(1) ・コミュニケーションの意義、目的、役割、障害に応じたコミュニケーション技術について解説する。 ・事例をもとに利用者とのコミュニケーションについてグループディスカッションを行う。</p>
<p>(2) 介護におけるチームのコミュニケーション</p>	<p>(2) 同左</p>	<p>(2) ・個別援助計画書、ヒヤリハット報告書、5W1Hなどについて解説する。 ・個別援助計画書、ヒヤリハット報告書を事例に基づき実際に作成する。</p>
<p>6 老化の理解 6時間</p>	<p>6 老化の理解 6時間</p>	<p>6 老化の理解</p>
<p>(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常</p>	<p>(1) 同左</p>	<p>(1) ・老化に伴う心身機能の変化、日常生活への影響、喪失体験などについて解説する。</p>
<p>(2) 高齢者と健康</p>	<p>(2) 同左</p>	<p>(2) ・高齢者の疾病と生活上の留意点などについて解説する。 ・症状の変化にどのようにして気づけるか、グループディスカッションを行う。</p>
<p>7 認知症の理解 6時間</p>	<p>7 認知症の理解 6時間</p>	<p>7 認知症の理解</p>
<p>(1) 認知症を取り巻く状況</p>	<p>(1) 同左</p>	<p>(1) ・認知症ケアの理念、視点について解説する。</p>
<p>(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理</p>	<p>(2) 同左</p>	<p>(2) ・認知症の概念、原因疾患とその病態、健康管理などについて解説する。 ・物忘れと認知症による記憶障害の違いについてグループディスカッションを行う。</p>
<p>(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活</p>	<p>(3) 同左</p>	<p>(3) ・認知症の人の生活障害、心理、行動の特徴、コミュニケーション方法などについて解説する。</p>
<p>(4) 家族への支援</p>	<p>(4) 同左</p>	<p>(4) 認知症の需要過程での援助、介護負担の軽減について解説する。</p>

8 障害の理解		3時間
(1) 障害の基礎的理解		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		
9 こととからだのしくみと生活支援技術 75時間		
ア 基本知識の学習		10~13時間
(1) 介護の基本的な考え方		
(2) 介護に関することとからだのしくみの基礎的理解		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		
イ 生活支援技術の講義・演習		50~55時間
(4) 生活と家事		
(5) 快適な居住環境整備と介護		
(6) 整容に関連したこととからだのしくみと自立に向		
(7) 移動・移乗に関連したこととからだのしくみと自		
(8) 食事に関連したこととからだのしくみと自立に向		
(9) 入浴、清潔保持に関連したこととからだのしくみ		

8 障害の理解		3時間
(1) 同左		0.5
(2) 同左		2
(3) 同左		0.5
9 こととからだのしくみと生活支援技術 75時間		
ア 基本知識の学習		10時間
(1) 同左		4
(2) 同左		3
(3) 同左		3
イ 生活支援技術の講義・演習		55時間
(4) 同左		5
(5) 同左		5
(6) 同左		7
(7) 同左		7
(8) 同左		7
(9) 同左		7

8 障害の理解	
(1) ・障害の概念とICFについて解説する。	
(2) ・身体、視覚、聴覚、肢体不自由などの障害について解説する。 ・それぞれの障害の特性と介護上の留意点についてグループディスカッションを行う。	
(3) ・家族への支援、介護負担の軽減について解説する。	
9 こととからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
(1) ・倫理に基づく介護、法的根拠に基づく介護について解説する。 ・倫理や法的根拠に基づく介護についてグループディスカッションを行う。	
(2) ・学習、記憶、感情、意欲の基礎知識、影響などについて解説する。	
(3) ・人体の名称と働き、骨や関節などに関する基礎知識などについて解説する。	
イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) ・家事と生活の理解、基礎的知識と生活支援について解説する。 ・家事援助の機能についてグループディスカッションを行う。	
(5) ・家庭内での事故、バリアフリー、住宅改修などについて解説する。 ・事例に基づき、家庭内で多く発生する事故についてグループディスカッションを行う。	
(6) ・身体状況に合った衣服の選択、着脱、洗面の意義や効果について解説する。 ・衣服の着脱の介護について演習を行う。	
(7) ・移動、移乗に関する基礎知識、ボディメカニクスなどについて解説する。 ・移乗の介護、移動の介護に関連する演習を行う。	
(8) ・食事に関する基礎知識、咀嚼、嚥下のメカニズム、口腔ケアの意義などについて解説する。 ・食事の介護に関連する演習を行う。	
(9) ・入浴、清潔保持の基礎知識、羞恥心などへの配慮、清拭などについて解説する。 ・入浴の介護などに関連する演習を行う。	

(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向	(10) 同左	7	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関連した基礎知識、羞恥心への配慮、便秘の予防などについて解説する。 ・排泄の介護に関連する演習を行う。
(11) 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向	(11) 同左	7	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に関する基礎知識、環境の整備、褥瘡予防などについて解説する。 ・安楽な姿勢、褥瘡予防に関連する演習を行う。
(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終	(12) 同左	3	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する知識、多職種間の情報共有の必要性などについて解説する。 ・終末期ケアと家族への支援についてグループディスカッションを行う。
(実習) [※] (50～55時間中12時間以内)	(実習) [※] 0時間		(実習) [※]
介護実習 ○時間			
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間			
在宅サービス提供現場見学 ○時間			
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	ウ 生活支援技術演習 10時間		ウ 生活支援技術演習
(13) 介護過程の基礎的理解	(13) 同左	5	(13) ・介護過程の目的、意義、展開、チームアプローチについて解説する。
(14) 総合生活支援技術演習	(14) 同左	5	(14) ・事例に基づいて、各生活場面での一連の生活支援を提供する技術の習得、利用者の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を行う。
10 振り返り 4時間	10 振り返り 4時間		10 振り返り
(1) 振り返り	(1) 同左	3	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して学んだこと、根拠に基づく介護についての要点を解説する。 ・研修を通して学んだことについてグループディスカッションを行う
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	(2) 同左	1	(2) ・これからの介護の在り方などについてグループディスカッションを行う。
追加カリキュラム			
計 (130時間)	計 (130時間)		

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。